

1 題材名 かけ合いや重なりのおもしろさを味わおう

2 目標

かけ合いや音の重なりに気付き、そのよさや面白さを感じ取るとともに、曲の構造や特徴を理解して聴いたり、ふさわしい表現で歌ったりする。

3 題材について

本学級の児童は、「歌を歌うことが好き」だと感じている児童が34人であった。また、歌唱において、「高く美しい声で歌う」や「正しい音程」等の意識をしながら歌っていると回答した児童がそれぞれ7人と比較的多かった。しかし、「音楽を形づくっている要素を感じながら歌う」と回答した児童はおらず、さらに「特に何も気を付けずに歌っている」と回答した児童は全体の3割であった。これらのことから、技能面に注意を払っているが、「音楽を形づくっている要素」を手掛かりに、音楽を感じ取ったり音楽表現を工夫している児童が少ないという実態が明らかになった。

そこで、本題材では音楽を形づくっている要素の「かけ合い（呼びかけとこたえ）」と「音の重なり」を軸に、鑑賞と表現A歌唱を関わらせながら進めていく。その際、児童が2つの要素を意識しながら楽曲を聴いたり歌ったりできるように、「音楽のもとパズル（別添資料1）」を作成する。音楽を形づくっている要素をパズルのピースにしたもので、様々な要素が結びついて音楽が成り立っていることを視覚的にも捉えやすいよう工夫する。第1次では「アラ ホーンパイプ」の鑑賞活動を通して、「かけ合い」や「音の重なり」がどのような働きをしているものなのかを捉え、それらが生み出す音楽の面白さを感じ取っていく。第2次では「もみじ」の歌唱活動を通して、互いの声を聞き合いながら、「かけ合い」や「音の重なり」の響きの違いや表現する面白さを体感していく。

このように、歌唱と鑑賞の活動を関連付けながら、「かけ合い」や「音の重なり」による音楽表現の面白さや美しさに気づけるよう指導していくことで、児童が「音楽を形づくっている要素」を手掛かりに、音楽の構造を生かして表現したり味わったりする力を育むことができると考え、本題材を設定した。

4 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度①	音楽表現の創意工夫②	音楽表現の技能③	鑑賞の能力④
ア 曲想とその変化を感じ取って聴いたり歌ったりする学習に進んで取り組もうとしている。	ア 互いの声を聴いて、声部の役割に気付きながら表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。	ア 互いの声や伴奏を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。	ア 「かけ合い」と「重なり」を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じながら聴いている。

5 題材の学習計画

段階	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点と評価規準◎
導入	1	<p>① 「アラ ホーンパイプ」を聴き、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かす。 ・トランペットとホルンが主な旋律を演奏していることを確認する。 <p>② 題材を通しての学習課題を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">感じよう！「かけ合い」と「重なり」～「音楽のもとパズル」完成への道～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が十分に曲に親しむことができるよう曲を数回聴くようにする。 ・聞こえる楽器の音色や、どんな演奏の仕方をしているのか、どんな雰囲気曲か等を話し合う。 <p>◎ 曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。①ア（観察）</p>
追求	2 3 (本時)	<p>③ 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「かけ合い」と「重なり」を感じながら「アラ ホーンパイプ」を聴こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランペットチームとホルンチームに分かれ、自分の楽器が演奏されているときに挙手をしたり立ったりする。グループになり、二つのパートを一つの楽譜にまとめる。 ・トランペットの旋律が強調された「アラ ホーンパイプ」を聴き、二つの楽器で演奏されているものと感じ方を比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2時で曲を十分に聴く活動を中心に行い第3時ではそれをもとに考えたり話し合ったりする活動を中心に行う。 ・楽器のグループごとに演奏に合わせて体を動かし、それを楽譜に表す鑑賞活動を通して、児童が「かけ合い」や「重なり」を体と目で理解し、曲の構造や面白さを感じることができるようにする。 ・ピアノ伴奏（ホルンの旋律）に合わせてトランペットの旋律をリコーダーで演奏したものを聴き、二つの旋律がかけ合ったり重なったりすることで生まれる曲の面白さに気付けるようにする。 <p>◎ 「かけ合い」と「重なり」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくる要素によってつくられる曲の構造に気を付けて聴いている。</p> <p style="text-align: right;">④ア（発表・ワークシート）</p>
	4	<p>④ 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">音の重なりを感じながら、「もみじ」を歌おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の意味を確認し、主旋律をなめらかに美しく歌う。 ・下声部に合わせて挙手をしたり立ったりし、歌うパートを理解する。 ・音程に気を付けて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の今月の歌にもなっているため、朝の時間等も活用して継続して歌うようにする。 <p>◎ 互いの声や伴奏を聴き、自分の声を友達の声と調和させながら、ふさわしい表現で歌っている。</p> <p style="text-align: right;">③ア（観察・ワークシート）</p>
まとめ	5	<p>⑤ 本時の学習課題を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パートの関わりを意識しながら合唱しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と下声部に分かれて合唱をする。 ・合唱の様子を撮影し、よりよい合唱にするために話合ったり、表現を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに撮影して確認することができるよう、ICT機器を活用する。 <p>◎ 互いの声を聴いて、声部の役割に気付きながら表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">②ア（観察・ワークシート）</p>

6 本時の指導（※ 本時の指導は、指導計画の第2・3時を合わせて書いたものである。）

(1) 目標

「かけ合い」と「重なり」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、構造に気を付けて聴く。 ④ア

(2) 展開

	学習課題・学習活動	指導の手立て	◎評価規準（評価方法） ・学習活動を見取る視点
つかかむ	1 本時の学習課題をつかむ。 「かけ合い」と「重なり」を感じながら、「アラ ホーンパイプ」を聴こう。		・鑑賞活動に意欲的に取り組もうとしている。
考える	2 体を動かしながら、「アラ ホーンパイプ」を鑑賞する。 ・トランペットチームとホルンチームに分かれ、自分の楽器の音が聴こえたら挙手をしたり立ったりして、体を使って鑑賞する。 ・曲を流し、お互いのパートの動きを見合って全員で鑑賞する。	・体の動きについては、最初は挙手、覚えてきたら立つように伝え、グループで協力して自分のパートを覚えることができるようにする。 ・自分のパートの動きと相手の動きを視覚的に捉えることで、次の活動につなげる。	・聞こえた音を根拠に、自分の考えを友達に伝えている。 ・自分の考えと友達の考えを比べて聞いている。
深める	3 二つのチームが混ざったグループになり、それぞれのパートを一つの楽譜にまとめ、気付いたことを話合う。 目指す児童の言葉の例 ・最初と最後の場面で、トランペットとホルンは、追いかけて聞こえているみたいに聞こえる。 ・二つの音が重なって、豪華な雰囲気になっているところがある。 4 トランペットの旋律が強調された「アラ ホーンパイプ」を聴き、印象がどう変わるか話し合う。 目指す児童の言葉の例 ・楽器が一つになって重なりがなくなると、演奏が物足りない感じがする。 ・ホルンのパートも聞こえるけれども、伴奏として聴くと、追いかけている感じはなくなる。	・楽譜は、○や△などの記号を使ってまとめるよう指示する。 ・どの部分でどう感じたのかを書くよう、言葉が足りない児童には助言をする。 ・考えが思いつかない児童には、体を動かした活動を思い出させ、曲の構造について考えられるようにする。 ・大きく印刷した楽譜を用意し、クラスワークで児童の考えを共有できるようにする。 ・曲の印象の変化について、なぜそう感じるのかを問い、クラスで話し合うことで、本時の目標である「かけ合い」や「重なり」の面白さに気付けるようにする。	・体で感じたことを、表現することができている。 ・自分の考えを根拠を示しながら説明している。 ◎ 「かけ合い」と「重なり」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくる要素によってつくられる曲の構造に気を付けて聴いている。 ④ア（発表・ワークシート）
振り返る	5 学習を振り返る。 もう一度、最初の「アラ ホーンパイプ」を聴き、感じたことを鑑賞カードにまとめる。	・次時は、「かけ合い」と「重なり」を生かして、歌唱をしていくことを伝える。	

別添資料1 音楽のもとパズル

